

ケビン・メア米国務省日本部長（前在沖米国総領事）
の発言に対する抗議決議

ケビン・メア米国務省日本部長による「沖縄県民は、ゆすりでごまかしの名人で怠惰」との発言報道は沖縄県民を驚愕、憤らせている。

さらに、米軍基地普天間飛行場を「特別に危険ではない」との発言は、沖縄県民の心をひとつにし、9万人余が参加した今年の4月25日の県民大会における民意への許しがたい挑戦でもある。

宜野湾市は、中央に米軍基地普天間飛行場を抱え、2004年8月13日の沖縄国際大学への米軍ヘリCH-53D型機の墜落炎上事故をはじめ、事件、事故が度重なり起きており、市民の不安と恐怖は計り知れないものがある。

戦後65年間、基地の重圧にさらされ、今なお過重な基地負担を強いられている沖縄県民を愚弄し、侮辱する発言は断じて容認できない。このような人物が米国務省日本部長では、対米交渉等の進展も途切れてしまいかねない。

よって、本市議会は、ケビン・メア米国務省日本部長の差別的で、沖縄を植民地のごとく扱っている発言に対して厳重に抗議するとともに、発言の撤回及び謝罪を強く要求する。

以上、決議する。

平成23年3月10日

宜野湾市議会

あて先

米国務長官、駐日米国大使、米国務省日本部長、在沖米国総領事